

重文札幌農学校第2農場農機類標本台帳

一般名称: ホイールトラクタ 現地の通称: インターFarmall-Cub

資料種別: 製品-実物 製品-レプリカ 製品-模型 製品図面 写真等 図書掲載 その他

資料種類:	<input type="checkbox"/> 人力用具 <input type="checkbox"/> 耕起前器具 <input type="checkbox"/> 管理防除 <input type="checkbox"/> 貯蔵関連	管理プレートNo.	牝牛舎202
動力・分野	<input type="checkbox"/> 畜力用具 <input type="checkbox"/> 耕耘用具 <input type="checkbox"/> 収穫機 <input type="checkbox"/> 施設類	台帳No.	
	<input type="checkbox"/> 原動機具 <input type="checkbox"/> 整地用具 <input type="checkbox"/> 調製機器 <input type="checkbox"/> 機素 <input checked="" type="checkbox"/> トラクタ用機 <input type="checkbox"/> 施肥播種 <input type="checkbox"/> 加工機器 <input type="checkbox"/> その他		

製作者・会社: International Harvester Co. Ltd. (IHC) 製造市・国名

製造年_購入年,標本収集年:

使用目的・使用方法等: 車輪型トラクタ

利用経過_収集記録_意義等: 1951年に札幌興農園は、戦前にも扱っていた関係から北海道地区総代理店となってIHCブランドの輸入販売を始めた。1957年には日本全域に統合されて日本総代理店に国際興業(株)となり、黒部第四ダム工事に使う25tダンプ車(当時の国産車は10t積未満)を50台近く納入した。1965年以降は、小松製作所がIHC社と技術提携し、小松ロビン、小松インターナショナル(株)などへと移行し、ドイツインター設計の一部機種を国内生産に切り換えた。北大所蔵のF-Cub(由来調査中、ファーストヒッチ仕様車は後年の物で、これはリフトレバー方式の古い形式)。欠品のラジエータグリルは、金網である

仕様書_解説等: 座席が右にオフセットされたカルチビジョン型4輪トラクタ、機関: 水冷4Cyl.直列縦型、排気量975cc、出力9.75Ps/1600rpm、前進3段(3.2、4.8、9.8km/h)後進3.7km/h、最小回転半径2.5m/Brake、自重547kg、

右に全体図



外観特色_関連図等:



資料の所在: 牝牛舎 資料への特記事項

資料管理経過:

作業メモ・上掲欄の超過文追記: 日本における農業用トラクターの導入は、第2次線後、急速な歩行型トラクターの普及を迫る形で普及していった。1950年(昭和25年)、農林省が3台の本機Cubを輸入し、各地の農業試験場で試験を行ったのを皮切りに、1952年(昭和27年)にはフォードソン、ランツ等の乗用型トラクターや、農業用トラクターとしても使用できる農業用ジープが輸入開始されている。1950-1958の普及台数は、インター社製がCub:108台、農協や団体等に入った他シリーズのM/C/H型や100/230型が数台ずつで、インター製品合計で164台(全導入台数の23%)で第1位である。

台帳管理番号